

◆ Yokoso Obara Linkai

Take Free [0円]

# おはらのじかん

— 第25号 —

2022 Spring

巻頭  
特集

ちょっと前の昔から古代まで～  
おはらのむかし!

ふにしえを想像～

[ようこそ小原へ『仲間と小原で拠点づくり』]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」  
www.facebook.com/obachuu

おはちゅう  
以外でもOK





宮口古墳群からの出土品



宮口古墳群の看板



宮口1号墳



豊田市歌舞伎伝承館の中にある小原の歴史コーナーで地域人文化学研究所の天野さんに説明を受ける

# 巻頭特集

## おぼらのむかし

知ってそうで知らない昔々。縄文などの古代の話や昭和30年〜50年のちょっと昔の話などを取り上げてみました。先人たちの暮らしを感じてみてください。

西暦	和暦	内容
約18,000年前		勸業遺跡(大ケ(下仁木町))で旧石器(細石核)が出土
約12,000年前		田代B遺跡(小原田代)で縄文時代の石器(有舌尖頭器)が出土
約4,500年前		石棒(キネポトケ)が製作される
約1,400年前		塚古墳群・宮口古墳群(永太郎町・下仁木町)、地域の有力者が
大同2	大正11	白鳥神社創建(下仁木町)
807	弘仁11	道慈山観音寺開創(千洗町)
820	元中9	鈴木佐京遠重勝加茂郡失笠に住み小原谷を領有
1392		長福寺(教王)

小原の歴史年表は約18,000年前から始まる

## おぼらのはじまり

おぼらには今から約18,000年前の旧石器時代から脈々とこの地に人が住んでいた痕跡があります。今も昔も人が暮らしていくための最低限の生活はさほど変わりません。それは食べること、寝ること、そして子孫を残すこと。そのためには水のあるところ、森や川で食料が手に入ることで、そして、あたたかく安心して眠れる場所があることが、遠い昔から今もなお大切なことなのです。

### 古代のおぼら〜おぼらの先住民の土地に刻まれた歴史

今回は豊田市の古代遺産などに詳しい地域人文化学研究所の天野博之さんをお迎えし、お話を伺いながら小原を巡りました。小原の中にいくつ遺跡があるか知っていますか？なんと62箇所もの遺跡があります。時代別では縄文時代が8箇所、古墳時代3箇所、中世27箇所、近代5箇所、時代がまたがっている遺跡が19箇所です。種類別では古墳が6基、城跡12箇所、窯跡5箇所、祭祀遺跡が1箇所、あとは※1遺物散布地が38箇所あります。おもしろいことに弥生時代



遺物散布地を散策してみた様子

農耕生活が主流となり土地に定着する結果、土地を私有化しようとする動きが高まり、この小原にも7世紀に小さいながらも古墳をつくる者が居住しました。永太郎町を中心として宮口古墳4基、堤古墳2基が残っています。

### 【宮口古墳群】

宮口古墳群は狭い範囲に4基の古墳が形成されているのが特色です。国道419号線の東側の山頂に宮口古墳があり、北は高い山に続き、今は木が大きくなって見通しが悪いですが南は田代川を見下ろす場所です。第1号墳の古墳の大きさは直径3m、高さ1mで横穴式石室を内部構造とする小型の円墳です。玄室部分の遺存

が良好で天井三枚の遺存を含めてほぼ残存しています。第2号墳は第1号墳の北隣に位置し寄り添って作られているように見え、双子塚として珍しいものであるそうです。想像してみると、山の地形、古墳の向きから、田代川の流れる永太郎町のほうに人々の生活の営みがあったと思われる。そして、人々からも村の主のお墓が仰ぎ見て暮らせる絶好の場所だったといえそうです。これらの古墳は、おぼらの先住民の貴重な遺跡であり、田代川の水を利用して水田農業を行いながら、この小原の古代社会を築き上げた人々の墳場であることは間違いないようです。

### 小原の豊田市文化財保護指導員 山内義計さんに聞いた小原の文化財の見どころ



委員として編集された村史と

山内さんは、もともと盆栽が好きで市の名木会、文化財にも興味があったことから豊田市文化財保護指導員になられたそうです。小原地区内で、文化財が20くらい、名木も15くらいあるとのこと、年に何回か巡回して状況を市へ報告しているそうです。木は1回切ってしまうとなくなってしまうので、大切にしたいと話してくれました。

小原の名木でオススメをお聞きすると、天然記念物では、教聖寺のイチヨウとのこと。樹齢も小原で一番古く、推定で500年くらいはたっているそうです。ぜひ見てほしいそうです。そして変わったものでは、同じ小原大倉町のベニドヒガン桜。きれいな紅の桜が咲くそう、市内でもなかなか見ることはいきなりです。

文化財の方のオススメは宮口古墳。「豊田市にはたくさんのお墓があるけれど、小原みたいな山奥にこれだけのものを作る人があったことは珍しく不思議だと思ふ。」と教えてくれました。また、市場城址も県下有数の立派な山城。敵が攻め来るのを防ぐ要衝として、重要な地域だったのかも。改めて、小原の名木と文化財をしつかり巡ってみたいと感じました。



樹齢推定500年の教聖寺のイチヨウ

T.S.

『とよたiマップ』とは豊田市のさまざまな情報を一つにまとめた表示、検索できる地図情報システムです。

とよたiマップ(スマホ版)

とよたiマップ(PC版)  
https://www2.wagmap.jp/toyotacity/Portal



# おばあさんの昭和30〜50年代

「あそこには昔、饅頭屋があっただろ」「今で言う、移動販売をやっていたお店があったのよ」  
 「農林高校の分校が今の中学校の所にあっただろ、そこに通っていたよ」

「ちよつと昔の小原の話を聞かせてください」とお願いをして、昭和30〜50年代の小原を知る方々に集まって頂くこと、地図や書籍を持ち寄って話を映かせてくださった。

「大草にあった商店街にかかる電光式アーチ」「永太郎の旧道沿いに並んだあんまき屋さんに時計屋さん」「上仁木には百貨店、下仁木にはお饅頭屋さん」話を聞けば聞くほど、知らない小原が見えてきた。

玉突き所には若者が集まり、子ども達が川で遊んでいると、カランカランと鐘を鳴らしてアイスキャンデー屋がやって来くる。

現在の支所周辺の土地開発の途中では、削った山でラリーも行われた事があったそうだ。

高校生達が後輩を呼び出し、お説教をした小原中学校近くの忠霊塔広場は、今では立ち入り禁止になっていて、忠霊塔はふれあい公園に移されている。



\*\*\*\*\*



昭和30年頃の大草商店街(現小原町)。右手前には撞球場と書いてありビリヤード場がある。看板には小原劇場の名もあり、看板の鈴屋商店さんがアイスキャンディーを売っていたそう。写真は現品野屋さんから小原診療所方面を撮影したもの。(写真提供:竹内功氏)

## 話の中でも花形はやはりこの場所。

「コンビニの所には『宝城座』と言って歌舞伎や映画を上映する劇場があった」。調べてみると、宝城座は昭和元年に小原村の大草(現小原町)に建てられ、当時は芝居のみが上映されていたそう。昭和13年頃から正月や盆などの祝祭日に映画を上映するようになり、映画館「小原劇場」となった。「真ん中に花道があって、畳で升席になつとったから人が座つちゃうと通れないもんでね、碁盤の目状にずつと通路が作ってあつた。

\*\*\*\*\*

そこを通つてあつちいたりこつち行つたりするだよ。その後には椅子になつたんだわ」。集まつた方々はうんうんとその光景を浮かべて懐かしんでいた。「学校終わりに良く歩いて行つた。怪人20面相なんかを覗いてね」と話してくれた方のお家は千洗町。え、歩いて!?聞き返すと「大草の辺りまでの近道があつたからねえ。1時間はかからなかつたかな」と、事もなげにおしやつた。「でも、怪談話なんか観てから帰るのはさすがに怖かつたね」。

## 続いての舞台は永太郎町。

どの方に聞いてもまず出てくるのが「あんまき屋さん」。長く続いていらつたこともあり、幅広い世代からお話が出てきた。筆者も食べてみたかった。

そして、中学卒業で高校に上がる時には、永太郎の時計屋で腕時計を買つてもらつたというのが一つのステータスだった、との話を耳にしたことがあつたので、永太郎界限にお住いの方に聞いてみると「そうそう、あそこの時計屋さん連れていつてもらつたね。SEIKOの腕時計を買つてもらつたよ」と嬉しそうに教えてくださった。バスに乗って外の高校へ行く方には必須アイテムだった様だ。

## さて、最後は上仁木町。

「私は岐阜の方からお嫁に来ただけで、あんな便利な大都会にお嫁へ行けるなんて幸せ者だ!なんて言われたのよ」と言われるほど、旧道沿いには様々なお店が並んでいたそう。「酒屋さんと百貨店でほとんど何でも揃つて、そりゃあ便利だった。今はみくんな閉めちやつたけどね」と、少し寂しそうな目で語ってくださいました。

## 変わりゆく小原。

人口の減少と共に、必然的に店の数も減っていく。今なお、店を続けてくださっている方々に尊敬と感謝の意を送ると共に、これからの小原に必要なものは何かを、考えていきたい。



↑現在の小原町の写真。赤いラインあたりが右の写真の位置。左上の家だけが当時の面影を残している。

右の写真は、昭和40年頃の小原町。現市役所小原支所のある高台から見下ろした写真。(写真出典:目で見ると豊田・加茂の100年郷土出版社より)



宝城座(現ファミリーマートあたり)

農協倉庫(現JAあいち豊田小原支店)

\*\*\*\*\*



昭和35年頃の上仁木。奥に商店街入口のアーケードが見える。右手奥は旧小原郵便局。(写真提供:小境邦明氏)



昭和33年頃の小原中学校。人文字が描かれている。(写真提供:加納四郎氏)



## 小原に 県内唯一となる 木造建築の 水力発電所が?!

現存する木造建築の水力発電所としては県内唯一となる川下水力発電所。その名の通り矢作川沿いの川下町にある中部電力の施設です。

川下水力発電所が運転開始されたのは1900年(明治33年)9月。中部電力管内でも3番目に古く、大正10年に火災により焼失し再建されましたが、愛知県内で現存する木造の水力発電所は、この川下水力発電所のみとなるそうです。



取水口は、「地獄谷」と呼ばれるあたりから少し上流の田代川にあり、そこに水をためて約130メートルの落差を利用して水を回しています。水車や発電機などの動力設備は何度も改修しており、発電所の出力も当初の127kWから、375kWへ。そして、現在の380kWと増えているそうです。今も豊田市内に電気を供給しています。無人での自動運転で稼働しており、勘八峡にある越戸水力制御所にて遠隔で監視制御を行っているそう。

建屋正面側の壁面上部には2ヶ所に3つの穴が開いており、当時はその穴から電線で電気を通していたようです。現役の発電所でありながら大正時代当時の様子を知ることができる貴重な存在です。





ようこそ小原へ『仲間と小原で拠点づくり』安藤さん、近藤さん、民本さん

小原大倉町の古民家。日よく当たる庭は広く、柿や栗の木、大きな椿の古木。もうすぐそこまできている春を感じさせる草花の芽。空き家バンクを利用し転居してきた安藤さん、近藤さん、民本さんが迎えてくれました。築百年以上の古民家。もともと土間だったという居間でお話を伺いました。部屋の中は明るく、新しい



畳の香り。襖が開け放つてある先の窓は開放感があります。「もともととはこんなに明るくはなかつたんです」



と、安藤さん。空き家になつている間に茂った庭木を切り、母屋の東にある蔵を壊してだんだんと日が入るようになってきました。大家さんも、湿気があつて水はけも悪いと話していたこの家は、リフォームに来る大工さんも嫌うほど土が湿つてたようです。



それを暗渠で水を流すようにしたら、だんだんと乾いてきたそう。建物の基礎をやり直し、傾きを調整し断熱材を入れて、床を張り替へ、畳も替えてすっきり明るく、綺麗に甦つた古民家。旧旭町の生まれでこちらで仲間と田んぼをやつていた近藤さん。四郷町の自宅との中間地点に休憩所や農機具を置くような拠点があればと、空き家バンクを閲覧するなかで、この家が気に入つたそう。そして傾聴ボランティアでもある安藤さんは、「ここに人との交流の場を作りたかつたと話してくださいました。」「コロナでなかなかそんな機会も作れませんが、話をし、心が安らぐ所にした。それだけでなく、ただ黙々と農作業をしたり、土を触つたり。子どもたちは無心に走り回つて遊ぶ。そんな時間を過ごしてほしい。お話を聞きますので話に来てください。」  
https://www.kikihana.com

**いかにオバラの巻 小原日記25**  
キンちゃんの OBARA NIKKI

オールおぼらロケ 映画の授業

山里に突然あがるアゲンキョーの魂  
**藤井達吉の生涯**  
The Life of DRAGON

主演はナント あつた...  
**キアヌ リーブス!**

若い頃の 写真  
Tatsukichi Hujii  
「ハナムだぜ!」  
藤井 達吉伝

みたまへ諸君...  
芸術と生活は一体なのだ!  
当時の芸術村を再現!

鳥屋平でのオハラロケ  
スタート

◆小原いろいろ情報

〔6月19日(日)〕

小原歌舞伎五月公演

今年は新型コロナウイルスの影響などで期間をずらしての開催となります。

小原交流館「ザ小原座」

電話0565(65)3711



〔5月8日(日)〕

漆芸家安藤氏が手掛けた和紙の漆コースターでキラキラとした時給体験  
地元小原の漆芸作家 安藤源一郎先生との貴重な体験。  
三河里旅  
info@mikawasatohabifun



※イベントは新型コロナウイルスの影響により、中止や変更の可能性が有ります。

おぼら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク  検索  
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

おぼちゅう以外の人でもOK!  
小原の情報ページ  
『おぼちゅう卒』是非登録してね!  
www.facebook.com/obachuu

STAFF 小原白宇感 編集後記

たった50年ほど前でも、景色やお店などの変化があったり、永太郎町あたりは、古墳もあり古代に栄えていた可能性があったり、小原の昔を想像をしながらの取材でした。知らないことも多くて可能性を感じました。

T.S (今号編集長)

新しい時代をつくるには過去を知ることがひとつのヒントになるのではと思います。おぼらの良さを改めて感じる取材となりました。おぼらへ越して4年、この先まだまだおぼらの魅力に出会えそうな気がします。

A.K

ずっとこの地で過ごして来た方々から聞くお話はとても貴重で楽しく、温かなものばかり。取材を通して、知らない小原を知れた事でますます小原に住む人達を好きになってしまいました。I Love OBARA♡

Y.S

雪が多く寒かった冬。いっぺんに暖かくなって心も体も置いていかれがち。まずはスタッドレスタイヤを普通タイヤに替えないと。新しい季節を楽しみに思える日常に感謝ですね。春よ来い。

A.H